

# 環境活動レポート

## 2018年度

活動期間：2018年4月1日～2019年3月31日



2019年5月16日作成

株式会社池田商店

# 環境方針

## [理念]

当社は、現代社会において地球環境の保全、及び低炭素社会の構築が最重要課題であること、またそれらの構築に重要な役割を担っている企業であることを認識し、産業廃棄物の中間処分業を通して廃棄物の再生使用と資源化を促進すると共に産業廃棄物の最終処分量の削減を図ることによって、環境保全に努め、循環型社会の形成に貢献します。

## [方針]

環境保全に貢献することが、当社の事業活動の根幹を成す重要課題でありますので、日頃の事業活動の中で環境保全に配慮して以下の活動を行います。

- 1) コンクリート製建造物の解体に伴い発生する廃棄物を処理し、路盤材等に再生する事業活動に於いて、環境に与える影響を的確に把握し、技術的、経済的に可能な範囲で環境目標を定め、管理プログラムを設定し、これを実行すると共に、定期的見直しを行い、環境汚染防止及び環境保全活動の継続的改善とその向上を図ります。
- 2) 環境保全に関する法規制を遵守して環境保全に取り組めます。
- 3) 保全活動を推進するための環境管理組織を整備し、活動目標を定め全員参加で推進します。
- 4) 事業活動の中で、特に以下の項目について積極的に保全活動を推進します。
  - ①. 産業廃棄物最終処分ゼロ活動  
受け入れた産業廃棄物は、分別を密に行い、100%リサイクルを目指すと共に適正な廃棄処理を行います。
  - ②. 節水活動  
作業場における発塵防止散水を行って地域社会への影響を抑えます。一方、節水に努めて散水を行います。
  - ③. 省エネルギー活動
    - a) 事業設備及び事務所における省電力に努めます。
    - b) 輸送及び作業用車両のエコドライブと保守点検の励行に努め、温暖化ガスの排出削減に努めると共に作業の安全確保に努めます。
  - ④. 環境保全活動
    - a) 自社から排出する廃棄物は減量化及びリサイクルを図ります。
    - b) グリーン購入を積極的に図ります。
  - ⑤. 受託した廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮
    - a) ドライブレアーダーによる収集運搬車の燃費向上と安全確保を図ります。
    - b) 構内で使用する重機の軽油使用量の削減を図ります。
- 5) 構内の清掃、工場周辺の環境整備を推進すると共に、周辺地域とコミュニケーションを図り、地域社会に貢献します。
- 6) 環境教育を実施し全社員が環境方針の遂行に当たり環境に関する意識向上を図ると共に、取引先へも環境基本方針を周知し、理解と協力を要請します。

2008年7月1日制定

2018年4月1日改訂

株式会社池田商店

代表取締役 **岸上 章男**

## 2 事業活動の概要

### 1) 事業所名及び代表者名

株式会社 池田商店                      代表取締役                      岸上 章男

### 2) 所在地

○本社: 〒241-0802 神奈川県横浜市旭区上川井町2046番地13-2階C  
○横浜工場: 〒241-0802 神奈川県横浜市旭区上川井町2446外6筆

### 3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者: 工場長              山本 幸一  
連絡先                      : 事務局                      大平 達也  
電話                      045-924-6025              FAX                      045-924-6026

### 4) 事業の規模

a) 法人設立年月日    1974年10月1日  
b) 資本金                      2,400万円  
c) 社員数                      26人 (2019年4月1日現在・役員含む)  
d) 売上高                      9.1億円 (2018年度)

### 5) 会社の沿革

- a) 平成20年4月株式会社池田商店を株式会社タケエイが買収し、100%子会社として傘下に収めた。  
会社名はそのまま池田商店とし、商号を株式会社池田商店とした。
- b) 合併を円滑に立ち上げるために、旧株式会社池田商店本社を本社事務所としていたが、業務効率のために、平成25年2月本社事務所を横浜工場付近に移設した。

## 3 認証登録範囲

- 1) 対象事業所: 本社、横浜工場  
2) 事業の活動: 産業廃棄物の収集運搬及び中間処分、再生砕石の販売  
3) 認証番号及び登録日: 0001746、2007年8月1日

## 4 処理実績

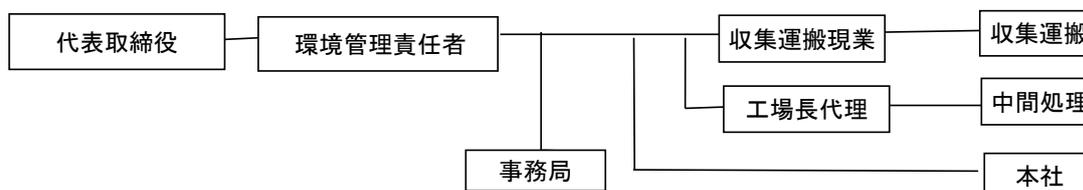
産業廃棄物収集運搬実績                      55, 442t (2018年度)  
産業廃棄物処分実績                              171, 250t (2018年度)

## 5 廃棄物処理業に付帯する事業免許

都道府県・市名	許可名称等	許可番号等
神奈川県	コンクリート塊等処理指定工場・建設リサイクル資材認定	-
横浜市	がれき類再資源化施設	-
川崎市	指定工場 (特定建設資材廃棄物等の再資源化処理施設)	-
神奈川県	計量証明事業	第528号
神奈川県	古物商	第451460007356号

## 6 EA21推進体制

### 1) 推進体制



## 2) 責任と権限

職務	責任及び権限
代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針を策定する。</li> <li>EA21の実行に必要な資源を用意する。</li> <li>環境管理責任者を任命する。</li> <li>EA21の全体的な取り組み状況を評価し、見直し、必要な指示を行う</li> </ul>
環境管理責任者 (工場長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムを構築し維持する。</li> <li>環境経営システムの構築、運用状況を代表に報告する。</li> <li>環境活動レポートを取りまとめる。</li> <li>環境活動に関し代表に上申する。</li> </ul>
収集運搬現業長	<ul style="list-style-type: none"> <li>収集運搬に関する現場指揮及び実績管理</li> <li>配車指示、収集運搬作業およびEA21活動現場責任者</li> </ul>
工場長代理	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間処理に関する現場指揮及び実績管理</li> <li>プラント運転、製造、保管およびEA21活動現場責任者</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境管理責任者を補佐し、環境経営に関する実務の中核業務の推進</li> </ul>
従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>方針、目標、活動計画に基づく活動及びEA21の取組みに関する提言</li> </ul>

## 7 産業廃棄物の収集運搬及び中間処分業の許可の内容

### 1) 産業廃棄物収集運搬業・処分業(許可番号一覧)

●：石綿含有産業廃棄物を含まない ○：石綿含有産業廃棄物を含む

都道府県 ・市名	業区分	優良 認定	許可番号	許可の 年月日	許可の 有効年月日	燃 え 殻	汚 泥	廃 プ ラ ス チ ック 類	紙 く ず	木 く ず	織 維 く ず	金 属 く ず	及 び ガ ラ ス 陶 磁 器 く ず	鉋 さい	が れ き 類	ば い じ ん
横浜市	処分 (中間処理)	★	<a href="#">第05620020263号</a>	平成28年11月1日	平成35年10月31日								●	●	●	
神奈川県	収集運搬	★	<a href="#">第01403020263号</a>	平成28年8月23日	平成35年8月12日	●	○	●	●	●	●	●	○	●	○	
東京都	収集運搬		<a href="#">第1300020263号</a>	平成26年7月1日	平成31年6月30日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
千葉県	収集運搬		<a href="#">第01200020263号</a>	平成27年6月29日	平成32年6月28日			○	●	●	●	●	○	●	○	
埼玉県	収集運搬		<a href="#">第01100020263号</a>	平成27年6月18日	平成32年6月17日			●	●	●	●	●	●	●	●	
茨城県	収集運搬		<a href="#">第00801020263号</a>	平成27年8月25日	平成32年8月24日			●	●	●	●	●	●	●	●	
群馬県	収集運搬		<a href="#">第01000020263号</a>	平成27年8月19日	平成32年8月18日			●	●	●	●	●	●	●	●	
栃木県	収集運搬		<a href="#">第00900020263号</a>	平成27年5月31日	平成32年5月30日			●	●	●	●	●	●	●	●	
山梨県	収集運搬	★	<a href="#">第01900020263号</a>	平成30年2月20日	平成37年2月19日	●	●	○	●	●	●	●	●	●	○	●
長野県	収集運搬	★	<a href="#">第2009020263号</a>	平成30年2月14日	平成37年2月13日	●	●	○	●	●	●	●	●	●	○	●
静岡県	収集運搬	★	<a href="#">第02201020263号</a>	平成30年4月8日	平成37年4月7日			○	●	●	●	●	○		○	
石川県	収集運搬	★	<a href="#">第01702020263号</a>	平成30年3月29日	平成37年3月28日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

### 2) 横浜工場設備能力

プラント処理能力	1日当り675 t 破砕1施設 (297 t / 日) : ガラス陶磁器くず、鉋さい、がれき類 破砕2施設 (675 t / 日) : ガラス陶磁器くず、鉋さい、がれき類
処理設備	機械選別 (ホッパーフィーダ)、破砕 (クラッシャー)、 選別 (スクリーン・マグネット)、ストックヤード
用地面積	8,469.7m <sup>2</sup>
保管量 (製品含)	7,089m <sup>3</sup>
保有重機	ホイールローダー : 2台 バックホー : 6台
保有車輛	10tダンプ : 13台 4tダンプ : 1台

## 8 処理フロー図

### 収集運搬



#### ■保有車輛

・10tダンプ	13台
・4tダンプ	1台

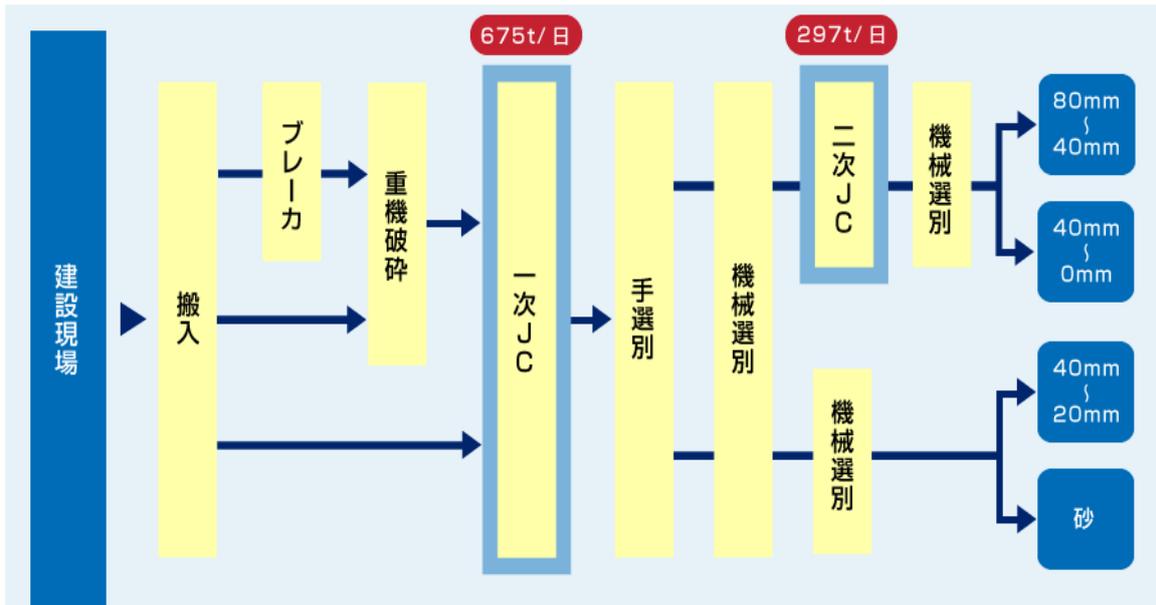


ダンプのあおりが改造されており、杭頭・橋脚の受入が可能

他社では困難で割高な大塊・自然石の受け入れ状況



## 処理フローのご案内



### ※鉦さいの受入について

当社では、製品の管理基準を設けているため土壌環境基準(46号・19号)をクリアしたものののみ受入対象としております。さらに性状等なども検討させていただき、最終的な受入可否を判断しております。

## リサイクル製品のご案内

RC40-0、RM40-0、RCダスト(10-0)、RC80-60、RC40-20、の5種類とバリエーションに富んだ再生碎石を生産しております。

The product showcase displays five types of recycled aggregates: RC80-60, RC40-20, RC40-0, RM40-0, and RCダスト(10-0). A red box highlights that these products are not produced by competitors and require special technology for production. A red banner at the bottom states: 再生碎石の種類が豊富なので、お客様のご要望にお応えできます！

## 9 環境目標とその実績

### 9.1 中期環境目標

項目		単位	基準値 (2016年度)	2017年度 (実績値)	2018年度 (実行目標値)	2019年度 (中期目標値)
電気使用量	横浜工場	kWh/年	188,707	189,250	105%	103%
		kWh/処分量	1.03	1.16	1.18	1.14
	本社	kWh/年	9,260	8,823	97%	97%
	全社	kWh/年	197,967	198,073	106%	102%
軽油使用量(重機)	L/年	180,123	142,424	97%	79%	
	L/処分量	0.98	0.87	1.03	0.84	
軽油使用量(収集運搬車両)	L/年	212,260	168,505	78%	83%	
	L/収集量	2.91	3.17	3.05	2.95	
ガソリン使用量(営業車両)	L/年	3,887	3,286	98%	90%	
				3,800	3,500	
温室効果ガス排出量(*,*,*)	kg-CO <sub>2</sub> /年	1,137,754	918,237	88%	83%	
				1,005,598	948,790	
水使用量(総排水量) (横浜工場)	m <sup>3</sup> /年	1,490	1,580	147%	100%	
	L/処分量	8.13	9.66	12.94	8.20	
	本社			チェックシートで定性管理		
自社一般廃棄物の削減	kg/年	660	680	106%	98%	
				700	650	
産業廃棄物の収集運搬量	t/年	73,031	53,238	75%	82%	
				55,000	60,000	
産業廃棄物の処分量 (リサイクル量)	t/年	183,275	163,548	93%	93%	
				170,000	170,000	
業務の環境への配慮	年次計画	環境&安全	防災備蓄品の見直し、地域融和の促進			
グリーン購入	%	100	チェックシートで定性管理			

(\*) 電力の二酸化炭素排出量は、実排出係数0.500kg-CO<sub>2</sub>/kwh(東京電力、H27年度実績、H28.12.27公表)

[2018年度目標値の設定の考え方]

- ① 2017年度における次年度取組を基本に、直近の経営環境を加味して実行目標値を再設定した。
- ② 収集・運搬量、中間処理量はいずれも数%の増加を見込む。
- ③ 横浜工場の電力量は、原料の悪化に伴い原単位で2017年実績より2%増加を見込む。
- ④ 工場内重機の軽油使用量は、原料品質悪化により基準原単位寄りの大幅悪化を見込む。ただし分別作業の効率化、低燃費ホイールローダーへの重機更新効果を見込み、使用量削減に努力する。
- ⑤ 収集運搬用軽油は、収集車の稼働率を増加させることで、原単位で2016年度実績値より削減を図る。輸送距離増加はデジタルレコーダーの活用で最適走行ルートの手配を徹底し、増加量を抑制する。
- ⑥ ガソリン使用量は、営業圏の拡大に伴う走行距離増を見込んで設定する。参考に燃費データを合わせて採取し、エコドライブの実施状況の自己管理を徹底する。
- ⑦ 発じん防止用散水は、処理場周辺の環境保全のため、原料(再生処理前ガラ等)及び製品(再生砕石)への散水量の増加を見込む。本社の水道使用量は家賃に含まれるため、チェックシートで節水を評価する。
- ⑦ 自社排出一般廃棄物削減は、排出量抑制に努力する。
- ⑧ 企業の環境配慮として、労働安全や防災関係の強化と、地域融和促進を環境目標に設定する。
- ⑨ グリーン購入は可能な限り再生品の使用を心掛ける。年度末にチェックシートで活動を評価する。
- ⑩ 化学物質の使用はない。

## 9.2 環境活動計画(2018年度)

二酸化炭素の削減	軽油・ガソリン使用量の削減	① 車輦エコドライブ(アイドリングストップ)	収運	○	
		② 重機の効率的な使用(アイドリングストップ)	収運	○	
		③ 燃費管理データ収集	収運	○	
		④ 定期点検の徹底	収運	○	
		⑤ デジタルタコメータによる安全・エコ運転監視、点数化	収運	○	
	電気使用量の削減	① 節電告知ラベル貼付	本社	○	
		② エアコン省エネ設定運転	本社	○	
		③ 不必要照明消灯(減灯)	本社	○	
		⑤ クールビズ・ウォームビズの展開	本社	○	
		⑥ 節電製品・機器への切替	全社	○	
		⑦ 高効率タイプ(LED)照明器具への切替	本社	○	
		⑧ 冬場の電気暖房から灯油暖房への切替	本社	○	
		水資源	地下水使用量の削減	① 適正散水実施	処理
	② 雨水利用(発塵防止散水、車両洗浄に活用)			処理	○
③ 洗車水、散水の節約	処理			○	
リサイクルの拡大	最終処分量の削減	① 手分別作業の改善	処理	○	
		② 分別作業の標準化	処理	○	
		③ 処分方法の見直し	処理	○	
	リサイクルの拡大	① 金属類・廃プラ・木屑の分別回収による資源化	処理	○	
		② 大塊・自然石等の他社受入困難物の積極的な受入と再生化	処理	○	
		③ 他社では困難な大型再生砕石化の差別化技術を確保	処理	○	
		④ 自社製品を活用する新製品・新用途の積極的な開発	全社	○	
		⑤ 紙類の分別回収と裏紙の積極使用	本社	○	
一般廃棄物の削減	② ビン・缶等の分別回収ボックスの適正配置	全社	○		
	③ 発生したごみは可能な限り、圧縮等を行い、減量して	全社	○		
	④ エコマーク文房具の購入拡大	全社	○		
グリーン購入他	② 修理可能な製品の優先購入	全社	○		
	③ 工場内の5Sの徹底、安全パトロール強化	全社	○		
	④ 事業所周辺の環境や生き物の保全活動を行っている	全社	○		

### (1) 過去3年間の活動実績推移

項目	単位	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 実績	備考
温室効果ガス排出量	Kg-CO <sub>2</sub> /年	1,137,754	918,237	997,098	2017年度より 排出係数変更
	電力排出係数(kg-CO <sub>2</sub> /kWh)	0.464	0.500	0.505	
水使用量(横浜工場)	m <sup>3</sup> /年	1,490	1,580	1,986	
産業廃棄物の収集運搬量	t/年	73,031	53,238	55,442	
受託した産業廃棄物の処分量	t/年	175,428	163,548	171,250	
再資源化量	t/年	175,317	163,369	171,085	
2次処分量	t/年	162.0	179.0	165.0	

### 9.3 2018年度の目標と実績

2018年4月から2019年3月迄の2018年度活動実績を下記に示す。

項目	単位	2016年度実績(基準値)	2018年度実行目標値	2018年度実績値	達成率(%)	
電力使用量	横浜工場	kWh/年	188,707	200,000	202,156	99
		kWh/処分量	1.03	1.18	1.18	100
	本社	kWh/年	9,260	9,000	8,745	103
	全社合計	kWh/年	197,967	209,000	210,901	99
軽油使用量(重機)	L/年	180,123	175,000	171,882	102	
	L/処分量	0.98	1.03	1.00	103	
軽油使用量(車両)	L/年	212,260	165,000	164,137	101	
	L/収集量	2.91	3.00	2.96	101	
ガソリン(営業車、本社)	L/年	3,887	3,800	3,775	101	
温室効果ガス排出量(注1,2)	Kg-CO <sub>2</sub> /年	1,137,754	1,005,598	997,098	101	
水資源投入量	m <sup>3</sup>	1,490	2,200	2,165	102	
	ℓ/処分量	8.1	12.9	12.6	102	
一般廃棄物の排出量	kg/年		700	720	97	
産業廃棄物の収集運搬量	t/年	73,031	55,000	55,442	101	
産業廃棄物の処分量(リサイクル量)	t/年	183,275	170,000	171,250	101	
廃棄物最終処分量(努力目標)	t/年	162	179	165	実績把握のみ	
業務の環境への配慮	年次計画	環境&安全	防災備蓄品の見直し、地域融和の促進、10項に記載			
グリーン購入	%	100	チェックシートで定性管理			

注1) 電力の二酸化炭素排出量は、**排出係数0.500kg-CO<sub>2</sub>/kWh(東電、実排出)**で算出。

### 9.4 2018年度環境活動の取組結果の分析

#### (1)CO<sub>2</sub>ガス排出量

ほぼ目標値以内の排出量に抑制できた。自社排出量の90%近くが重機及びダンプの軽油使用量で占める。軽油使用量削減がCO<sub>2</sub>排出削減上の課題である。

#### (2)総エネルギー投入量及び温室効果ガス排出量

電力使用量は何とか目標値を達成した。これは処理原料の「大塊ガラ」化による破碎工程での使用量増加を、破碎方法の工夫でカバーした。処理量原単位は、基準値より悪化しているが、処理量確保による固定増抑制、「大塊ガラ」増による比例減で、目標値を辛うじて達成した。

重機軽油使用量は、処理作業量減で「大塊ガラ」破碎作業の負荷増をカバーし、目標値を若干下回った。原単位はほぼ目標値通りである。処理量目標値未達月の8月、1月は、「大塊ガラ」のため大幅未達。

収集運搬は運転手不足のため、外注輸送に切替、基準収集運搬量より減少した。積載効率向上のため、往復輸送(再生砕石輸送車が、帰り便で近郊の廃棄物を積載)の推進、エコドライブ強化で使用量抑制、1台あたり収集量向上に努めた。その結果使用量、原単位ともに目標値を達成した。燃費は輸送路の渋滞により努力目標値未達が3か月連続した。

#### (3)水使用量

当社の水使用は、発塵防止用散水と生活用水である。発塵防止用の散水が圧倒的に多い。タイヤプール及び場内散水作業は、環境保全上必要な散水と考え、目標値の大幅増加を図った。設備更新及び節水努力で、何とか使用量及び原単位ともに目標値に収まった。

#### (4)産業廃棄物の収集運搬量

2016年度からの原料受入方針をガラから「大塊」への変更により、2017年度は収集・輸送量を大幅ダウンの目標値を設定した。計画的に外注比率を高めた結果、輸送量は基準値の75%にダウンしたが、目標値は達成した。

#### (5)産業廃棄物の中間処理

中間処理製品の品種を需要が安定している再生砕石に重点を移した。これに伴い受入原料(廃棄物)を、鉱さいから大塊などの「ガラ」を増加させる方針に変えた。2017年度中間処理量は、再生商品の貯留能力の関係で17万トンで計画した。再生品の市況も回復基調にあり、目標値達成した。

#### (6)産廃及び一廃のリサイクル

当社における産廃&一廃の排出は下記の通りであるが、100%リサイクルを目標に努力している。

- ① 受け入れた産業廃棄物に混入している金属くず、木くず、プラスチックくず⇒全量リサイクル
- ② 横浜工場から出る廃油⇒全てリサイクル
- ③ 横浜工場・本社から出る一般廃棄物⇒焼却処理

#### 9.4 次年度の取組(中期計画の見直し)

項目		単位	基準値 (2016年度)	2018年度 (実績値)	2019年度 (実行目標値)	2019年度 (中期計画)
電気使用量	横浜工場	kWh/年	188,707	202,156	106%	103%
		kWh/処分量	1.03	1.18	200,000	193,800
	本社	kWh/年	9,260	8,745	97%	97%
		kWh/年	197,967	210,901	9,000	9,000
軽油使用量(重機)	L/年	180,123	171,882	106%	102%	
	L/処分量	0.98	1.00	209,000	202,800	
軽油使用量(収集運搬車両)	L/年	212,260	164,137	95%	79%	
	L/収集量	2.91	2.96	172,000	142,800	
ガソリン使用量(営業車両)	L/年	3,887	3,775	82%	83%	
	L/年			175,000	177,000	
温室効果ガス排出量(*,*)	kg-CO <sub>2</sub> /年			98%	90%	
		1,137,754	997,098	3,800	3,500	
水使用量(総排水量) (横浜工場)	m <sup>3</sup> /年	1,490	2,165	88%	83%	
	ℓ/処分量	8.13	12.64	1,005,667	948,790	
	本社			148%	101%	
自社一般廃棄物の削減	kg/年	660	720	2,200	1,500	
産業廃棄物の収集運搬量	t/年	73,031	55,442	12.94	8.20	
産業廃棄物の処分量 (リサイクル量)	t/年	183,275	171,250	チェックシートで定性管理		
業務の環境への配慮	年次計画	環境&安全	防災備蓄品の見直し、地域融和の促進			
グリーン購入	%	100	チェックシートで定性管理			

(\*) 電力の二酸化炭素排出量は、2019年度実行値より津軽アップルパワー排出係数0.538kg-CO<sub>2</sub>/kWh(調整後、2019年度届出用)。2017~2019年度(ピンク)まで実排出係数0.505kg-CO<sub>2</sub>/kWh(東京電力、)次年度取組の考え方

- ① 基準値(2016年度)、2018年度実績値を元に、中期環境目標値の見直しを行う。増減指数は基準年使用量ベース。
- ② 収集運搬量、中間処理量は経営環境より、2018年ベースを維持する。
- ③ 横浜工場の電力量は、入荷原料の品質劣化を考慮し、原単位で2018年実績値を維持する。
- ④ 工場内重機の軽油使用量は、原単位ベースで2018年度実績を維持する。ただし分別作業の効率化、低燃費ホイールローダーへの重機更新効果を見込み、2018年度原単位削減を努力目標とする。
- ⑤ 収集運搬用軽油は、収集車の収集道路事情より、燃費低下傾向が2019年も続くと想定される。原単位で2018年度実績値を維持する。デジタルレコーダーの活用で最適走行ルートの指示を徹底し、燃費向上を図る。
- ⑥ ガソリン使用量は、営業圏の拡大に伴う走行距離増を見込んで設定する。参考に燃費データを合わせて採取し、エコドライブの実施状況の自己管理を徹底する。
- ⑦ 水使用は、工場環境保全のため、原料(再生処理前ガラ等)及び製品(再生砕石)への散水量を維持とする。本社の水道使用量は家賃に含まれるため、チェックシートで節水を評価する。
- ⑧ 自社排出一般廃棄物削減は、排出量抑制に努力する。
- ⑨ 企業の環境配慮として、首都直下型地震対応として防災関係の見直しと、地域融和促進を環境目標に設定する。
- ⑩ グリーン購入は可能な限り再生品の使用を心掛ける。年度末にチェックシートで活動を評価する。
- ⑪ 化学物質の使用はない。
- ⑫ 本年度、契約変更をした電力会社(バイオマス発電)により、一層のCO<sub>2</sub>削減を図る。

## 10. 業務の環境への配慮

### 安全衛生への取組

#### 安全衛生教育の徹底

基本方針に基づき、朝礼にて安全唱和の徹底、全作業終了後の終礼の実施。  
定期的な安全衛生会議の実施、年に1度の安全衛生大会を実施する事により全社員への真の安全衛生教育を啓蒙し続けています。  
また工場内にも、お客様への安全意識向上の一助となればと『安全看板』『環境掲示板』を掲示しています。



#### 2019年度安全衛生方針

「安全はすべてにおいて優先する」

1人1人が安全に対する意識、知識、感性を養い労働災害、交通事故防止に努める

I. 目 標 【安全】労働災害：0件 重機事故：0件 車輛加害事故：0件  
【衛生】職業疾病：0件

#### II. スローガン【安全衛生】

声かけは焦りを抑える命綱 互いに気にかけて 仲間を守れ

#### 【交通安全】

運や勘では防げない 慣れた道でも油断せず 高い意識で安全運転



### 地域志向CSR活動

弊社では工場内外の清掃、緑化活動、周辺地域の生物調査などの環境保全のため、毎週、管理者が弊社工場から小川アメニティまでをパトロールしています。そこで気が付いたことをその週の活動内容として、清掃、散水、草刈などを行っております。また、日頃できないところについては定期的に全社にて、環境保全活動に取り組んでおります。(環境目標に設定し、活動しています)

2018年12月29日(土)には、全社にて保土ヶ谷バイパスの清掃及び小川アメニティ上流を重点的に実

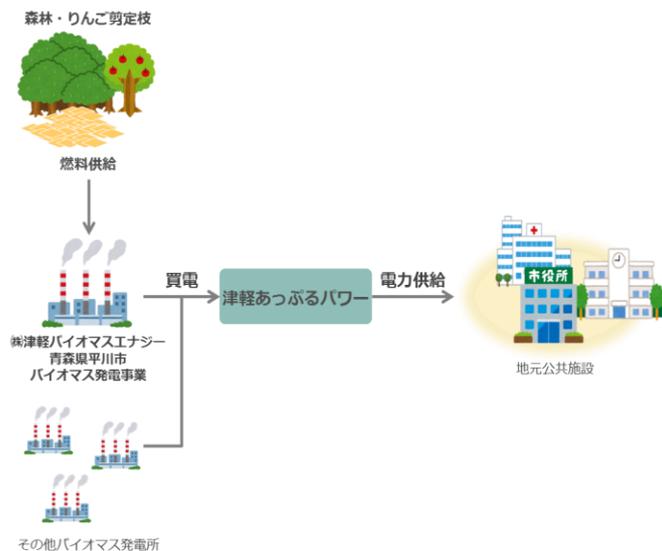


## 環境負荷低減活動

環境への配慮として、環境負荷低減のため、電力会社をバイオマス電力を供給する(株)タケエィグループ「(株)津軽あつぷるパワー」へ変更しました。

### ★電力供給のしくみ

(株)津軽あつぷるパワーで供給する電力は、津軽地方の森林間伐材と、リンゴの剪定枝を原料としたバイオマス発電所由来の電力です。



## 環境美化活動

弊社では工場内外の清掃、環境美化活動、周辺地域の生物調査などの環境保全に取り組んでおります。



## 11. 社長による総合評価と全体の見直し

実施日：2019年5月16日(木)

報告項目	管理責任者からの報告内容	社長判定
環境経営システム構築	EA21は順調に活動を進めている。推進体制・環境経営システムの改訂は特にはない。山本幸一管理責任者のもとPDCAの輪も順調に回転している。	○
環境目標及びパフォーマンス	今年度は品質強化も加味して目標に取り組んだ。全般に目標値は、使用量及び原単位ともにクリアーすることが出来た。原料の大塊化により収集量、処理量の減少を見込んだ目標値を設定した。収集運搬車は運転手不足のため、積極的な外注化を図った。その結果、稼働率維持で、当初の目標値を達成した。 グリーン購入対策として、2019年度より電力をバイオマス発電の津軽アップルパワーに切り替える。	○
環境関連法規制	環境法規制登録一覧表の様式を一新し、該当条文名と順守内容を明確にし、遵守体制を整備した。フロン発生抑制法に該当するエアコンはなし、改正消防法の消火器耐用年数も期限内で問題はなかった。他の法令の順守も問題なかった。	○
外部から苦情・要望	環境に関わる苦情・要望等ない。	○
緊急事態の想定及び訓練	2018年12月12日消防署員指導による工場火災を想定した訓練を実施。対応手順書の改訂は必要ない。実践的な訓練であった。消火器の位置、使用法の周知を図る。通報者・伝達者の機敏さ・的確さもかなり評価できる。	○
前回の指示事項の是正状況	前年度の指示事項「EA21の更なる活性化のため、運用方法の見直しを図ること」は、①横浜工場内の5S活動の徹底。特に構内美化及び作業通路の清掃。②きめ細かい散水による発塵防止③工場周辺の環境保全及び地域融和の更なる促進、を推進した。	○
社長からの指示	①本年度もEA21活動に積極的に取り組み、成果が出ていることに感謝する。 ②昨年度から工場処理は出荷に応じた生産方式に切り替えた。工場能力は再生品の出荷量律速となる。再生品の需要動向に注意が必要である。今のところこの生産体制で大きな問題は発生していない。 ③処理設備の経年劣化により設備更新時期であるため、徹底的な整備による現状維持能力確保が重要となる。 ④全体に人手不足であるが、特に運転手確保が一段と厳しくなる。かかる状況の中で輸送量を維持するには、収集運送体制の抜本的な見直しが必要な時期にきている。 ⑤これらの経営課題をEA21活動にどのように取り入れるか、管理責任者を中心に検討を進めて欲しい。	

### 変更の必要性の有無

①環境方針	変更なし	環境方針を変更すべき事項はない。
②環境目標	変更あり	収集量、中間処理量の変動に対応した目標値の見直し
③環境活動計画	変更あり	環境配慮として、地域との融和強化を環境活動計画に織り込むこと。
④環境経営システム	変更なし	EA21ガイドラインの改正動向に留意しておくこと。

## 12. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

関連法規の順守は、2019年3月順法性を自己チェックした結果、法律違反がない事を確認しました。また、過去3年間、関係当局から法律違反の指摘及び指導を受けたことも、住民提訴を受けたこともありません。

当社に関係する主要な環境関連法規は、下記の通りです

- 廃棄物処理法
- 騒音規制法、振動規制法
- 消防法
- 建設リサイクル法
- 横浜市生活環境の保全等に関する条例
- 自動車NOX・PM法
- オフロード法
- 道路運送車両法
- 道路交通法